

# 構成的グループ・エンカウターの リーダー効果尺度作成の試み

岩田将英(鳴門教育大学大学院)

葛西真記子(鳴門教育大学)

# 目的

- 構成的グループ・エンカウンター (SGE)  
予防的・開発的カウンセリングの一技法として学校現場において広く用いられている。

- 子どもたちへの効果  
武蔵(2004)

共感性(おもいやり)の増加, 教師と子どもとの結びつきの強化, 学級全体としての凝集性の高まり, 学級への帰属度, 満足度, 依存度の増加, 友達関係に対する肯定的な認知の高まり, 対人関係の改善, 自己肯定感の増加

# 目的

- 朝日 (1996)

指導のあり方を反省し・修正することで教師自身の感性を育てることにつながる

- 大関 (2001)

子どもの本音を受け入れる大切さ, 指導と受容の葛藤を通して, リーダーシップが身につく

- 藤村 (2004)

自己を振り返り, 他者理解・自己理解を行うことでリーダーの人間性を高めることにつながる

**SGEを実施した教師への効果？**

# 方法

## 〔予備調査〕

- 時期：2006年8月～9月
- 対象：現職教員26名
- 質問内容：「SGEを展開して、あなたにとって役立ったと思えることは何ですか？」  
複数回答および自由記述にて回答

# 方法

表1 予備調査の回答結果

教師(自分)にとって良かったと思える効果	人	(%)	自由記述の内容
学級内の人間関係を良好に保つスキルが高まった	16	61.5	<ul style="list-style-type: none"><li>・自己の思いこみに気づかされた。</li><li>・エクササイズの中に自分も加わり、自己開示をすることで児童との心理的距離が縮まった気がします。</li><li>・子ども理解が進んだ</li><li>・価値項目を整理して考えられるようになった。</li><li>・授業作りに役立った。</li><li>・子どもの気持ちがわかるというほどまでいかないが、それぞれの子どもの発見(自分自身や友達の考えに対する)の瞬間を共有できることに充実感を感じる。</li><li>・人への信頼・・・答えはその人の中にあるということ</li></ul>
自分(教師)自身の自己理解が深まった	15	57.7	
子どもとの関係が向上した	15	57.7	
自分のホンネを語るようになった	10	38.5	
子どもの気持ちがわかるようになった	8	30.8	
研修への意欲が高まった	8	30.8	
子どもの過ちを許せるようになった	6	23.1	
保護者とうまくいくようになった	6	23.1	
教師としてのやりがいを感じた	5	19.2	
授業の教材研究(事前準備)への意欲が高まった	5	19.2	
クラス(集団)を導く自信が深まった	5	19.2	
子どもが可愛くなった	3	11.5	
授業展開がうまくなった	3	11.5	
同僚と仲良くなった	2	7.7	
子どもを叱れるようになった	0	0.0	
管理職とうまくいくようになった	0	0.0	
家族と仲良くなった	0	0.0	

# 方法

## 〔予備調査の結果を整理〕

- 1.子どもたちどうしの人間関係を良好に保つスキル
- 2.教師が自分の今まで気づけなかった面に気づく・自己の洞察を深める
- 3.子どもたちとの人間関係(距離)
- 4.教師の適切な自己開示
- 5.子ども理解(特定の子ども・子ども一般に対する)の向上
- 6.教師の力量向上への動機づけ
- 7.教師の心理的なゆとり
- 8.保護者との人間関係
- 9.教師という仕事へのやりがい感
- 10.授業の改善への動機付け
- 11.子どもたちを導いていく自信
- 12.子どもに対する愛情
- 13.授業スキルの向上
- 14.同僚との人間関係

**質問項目(70項目)を作成**

# 方法

## 〔妥当性の検討〕

- 大学院へ派遣されている現職教員大学院生2名と大学卒業後直ぐに大学院へ入学した大学院生6名,そして指導教員1名の合計9名で検討を行った。
- 項目一致率の低い18項目を削除し,質問項目は52項目になった。

# 方法

- 1 「私は～と思う」と、「私」を主語にして他人へ考えを伝えることができる
- 2 私はあまり悩まない(逆転項目)
- 3 いじめは時間が経てば自然に収まることが多いと思う
- 4 私はクラスの雰囲気が悪いとき、明るくすることができる
- 5 どの教師も自分のことだけで精一杯だと思う(逆転項目)
- 6 どんなに家庭環境が劣悪であっても、教師ができることは大きいと思う
- 7 どんな扱いにくい子どもでも、努力しだいで信頼関係を築けると思う
- 8 どんな子どももかわいいと思う
- 9 私は学級(学校)目標に向けて子どもたちを導いていく自信がある
- 10 私は学級で起こった大きな問題(いじめ,盗難,事件,事故)は、全員で話し合っ解決する
- 11 私のクラスでは保護者の学級役員やPTAの役員がスムーズに決まる
- 12 学年主任や教科主任の意見は絶対的な力があると思う(逆転項目)
- 13 休み時間に子どもたちと一緒にいるときこちない空気になる(逆転項目)
- 14 休み時間に独りている子をグループに入れて遊ばせる
- 15 教えたことがある内容でも、授業前には指導書や赤刷りなどに目を通す
- 16 教師という仕事は、自分の人生の大半をかけるに値する仕事である
- 17 私にとって教師という仕事は天職である
- 18 勤務校の職員旅行や忘年会はわりと楽しい
- 19 研究授業の授業者を引き受けることが多い
- 20 研修を受けて、自らの力量をさらに高めたい
- 21 仕事内容に満足している
- 22 子どもから挨拶をされる
- 23 子どもが普段見せている姿は、全体の一部分でしかないと思う
- 24 私は子どもたちが多少騒がしくても許すことができる
- 25 私は子どもたちによく声をかけるほうだ
- 26 子どもたちの様子は、教師自身を映す鏡であると思う
- 27 子どもたち全員がNo!といっても正しいことは教えなければならないと思う
- 28 子どもどうしのトラブルを円満に解決できる
- 29 子どもの意外な一面に驚くことがある
- 30 子どもの人生において、教師の影響は大きいと思う
- 31 私は子どもの理解にあわせて、授業に変化をつけることができる
- 32 自分が困ったとき、助けてくれる同僚の教師はいない(逆転項目)
- 33 自分の教育技術が高まれば、子どもの学力も高まると思う
- 34 自分の中には、自分自身も知らない面がある
- 35 自分の内面をさらすと、他人につけこまれると思う(逆転項目)
- 36 自分自身のことはあまり話したくない(逆転項目)
- 37 清掃活動をおろそかにしている子どもにきちんと指導する
- 38 退勤後も子どものことが頭に浮かぶことがある
- 39 同じ職場に自分の弱音を吐ける人がいる
- 40 反抗的な態度の子どもはその子なりの理由があると思う
- 41 私は必要であれば、自分の感じたことを伝えることができる
- 42 保護者はいつも教師や学校のあらさがしをしていると思う(逆転項目)
- 43 保護者は教師を頼りにしてくれていると思う
- 44 保護者会や懇談会はなるべくなら回数が減って欲しい(逆転項目)
- 45 私は忙しいので、実際のところ授業の準備をする時間がない(逆転項目)
- 46 私は様々な学力や能力の子どもを、その子なりの方法で授業に参加させることができる
- 47 私は来校した保護者に気軽に声をかけられる
- 48 話題の指導法や興味のある指導法を取り入れる
- 49 授業中は教師が独りで話すことが多く、子どもたちは水を打ったように静かである(逆転項目)
- 50 子どもの間違いはたいてい集中力の欠如が原因であると思う(逆転項目)
- 51 私は視聴覚教材や具体物を使って子どもの興味関心を高めようとしている
- 52 体も気持ちも疲れ果てたと思うことがある(逆転項目)

# 方法

## 〔本調査〕

- 時期：2007年2月～6月
- 対象：現職教員234名。小学校152名・中学校37名・高等学校29名・特別支援学校6名・その他5名

## 表2 因子分析の結果 (promax回転後の因子パターン)

項目内容			
<b>第1因子: 教育に対する情熱</b>			
40 反抗的な態度の子どもはその子なりの理由があると思う	<b>0.687</b>	-0.136	-0.113
07 どんな扱いにくい子どもでも、努力しだいで信頼関係を築けると思う	<b>0.579</b>	0.198	-0.072
29 子どもの意外な一面に驚くことがある	<b>0.551</b>	-0.194	0.018
26 子どもたちの様子は、教師自身を映す鏡であると思う	<b>0.507</b>	0.132	-0.108
16 教師という仕事は、自分の人生の大半をかけるに値する仕事である	<b>0.506</b>	-0.109	0.154
35 自分の内面をさらすと、他人につけまわれると思う	<b>-0.477</b>	0.174	-0.227
08 どんな子どももかわいいと思う	<b>0.456</b>	0.271	0.004
41 私は必要であれば、自分の感じたことを伝えることができる	<b>0.455</b>	0.229	-0.010
38 退勤後も子どものことが頭に浮かぶことがある	<b>0.432</b>	-0.121	-0.050
25 私は子どもたちによく声をかけるほうだ	<b>0.430</b>	0.202	-0.027
30 子どもの人生において、教師の影響は大きいと思う	<b>0.427</b>	0.118	0.070
06 どんなに家庭環境が劣悪であっても、教師ができることは大きいと思う	<b>0.423</b>	0.080	0.165
20 研修を受けて、自らの力量をさらに高めたい	<b>0.408</b>	0.028	-0.006
<b>第2因子: 学級を経営する自信</b>			
04 私はクラスの雰囲気が悪いとき、明るくすることができる	-0.023	<b>0.730</b>	-0.002
09 私は学級(学校)目標に向けて子どもたちを導いていく自信がある	-0.197	<b>0.719</b>	0.163
28 子どもどうしのトラブルを円満に解決できる	0.064	<b>0.651</b>	-0.015
10 私は学級で起こった大きな問題(いじめ,盗難,事件,事故)は、全員で話し合っ解決する	0.116	<b>0.537</b>	-0.194
11 私のクラスでは保護者の学級役員やPTAの役員がスムーズに決まる	-0.133	<b>0.523</b>	0.085
46 私は様々な学力や能力の子どもを、その子なりの方法で授業に参加させることができる	0.030	<b>0.519</b>	0.086
14 休み時間に独りている子をグループに入れて遊ばせる	-0.001	<b>0.472</b>	-0.121
<b>第3因子: 職場での適応</b>			
42 保護者はいつも教師や学校のあらさがしをしていると思う	-0.113	0.080	<b>-0.663</b>
52 体も気持ちも疲れ果てたと思うことがある	0.183	-0.135	<b>-0.531</b>
21 仕事内容に満足している	0.063	0.160	<b>0.499</b>
45 私は忙しいので、実際のところ授業の準備をする時間がない	0.057	0.034	<b>-0.434</b>
05 どの教師も自分のことだけで精一杯だと思う	-0.121	0.226	<b>-0.393</b>
18 勤務校の職員旅行や忘年会はわりと楽しい	0.030	0.107	<b>0.381</b>
固有値	5.66	2.40	2.02
寄与率 (%)	21.76	9.24	7.79
累積寄与率 (%)	21.76	31.00	38.79
係数	.82	.77	.66
因子間相関		.441	.286
			.334

# 方法

- 下位尺度間の相関, 平均, 標準偏差, Cronbachの係数

	情熱	自信	適応	平均	SD	
教育に対する情熱		.409**	.271**	4.68	0.487	.82
学級を経営する自信			.240**	3.97	0.609	.77
職場での適応				3.55	0.661	.66

\*\*P<.01

# 結果

## ■ SGEの実施頻度による比較 実施なし・低頻度・高頻度(月に1回以上実施)

表3 実施頻度による各得点と分散分析結果

	実施なし			低頻度			高頻度			F値	多重比較
	N	平均	SD	N	平均	SD	N	平均	SD		
情熱	83	4.63	0.51	108	4.69	0.46	29	4.90	0.43	3.57*	実施なし<高頻度
自信	77	3.83	0.60	107	3.99	0.58	28	4.29	0.66	6.31**	実施なし<高頻度
適応	82	3.48	0.63	111	3.41	0.69	29	3.49	0.64	0.33n.s.	

\*\* : p<.01 \* : p<.05 n.s. : not significant

「教育に対する情熱」・・・実施なし<高頻度  
「学級を経営する自信」・実施なし<高頻度

# 結果

## ■ SGEの研修経験による比較 参加なし・参加あり(SVなし)・参加あり(SVあり)

表4 研修経験による各得点と分散分析結果

	参加なし			参加あり(SVなし)			参加あり(SVあり)			F値	多重比較
	N	平均	SD	N	平均	SD	N	平均	SD		
情熱	103	4.66	0.52	106	4.67	0.45	14	4.80	0.52	0.51n.s.	
自信	99	3.88	0.61	102	3.99	0.56	13	4.47	0.77	5.61**	なし = あり(SVなし) < あり(SVあり)
適応	106	3.50	0.70	107	3.45	0.62	12	3.11	0.53	1.87n.s.	

\*\* : p<.01 n.s. : not significant

「学級を経営する自信」・・・

参加なし = 参加あり(SVなし) < 参加あり(SVあり)

# 結果

## ■ SGEの実施頻度 × (性別・校種・教職年数・年齢・研修経験)の比較

### < 実施頻度 × 性別 >

「教育に対する情熱」「学級を経営する自信」「職場での適応」のいずれも有意な交互作用はみられなかった ( $F(2,211)=0.24, n.s.$ ;  $F(2,203)=0.08, n.s.$ ;  $F(2,213)=2.94, n.s.$ )

### < 実施頻度 × 校種 >

「教育に対する情熱」「学級を経営する自信」「職場での適応」のいずれも有意な交互作用はみられなかった ( $F(5,205)=0.67, n.s.$ ;  $F(5,198)=0.91, n.s.$ ;  $F(5,207)=1.09, n.s.$ )

### < 実施頻度 × 教職経験年数 >

「教育に対する情熱」「学級を経営する自信」「職場での適応」のいずれも有意な交互作用はみられなかった ( $F(4,206)=0.91, n.s.$ ;  $F(4,200)=1.04, n.s.$ ;  $F(4,209)=1.75, n.s.$ )

### < 実施頻度 × 年齢 >

「教育に対する情熱」「学級を経営する自信」「職場での適応」のいずれも有意な交互作用はみられなかった ( $F(6,202)=0.47, n.s.$ ;  $F(6,195)=0.46, n.s.$ ;  $F(6,204)=1.26, n.s.$ )

# 結果

- SGEの実施頻度 × (性別・校種・教職年数・年齢・研修経験)の比較

## < 実施頻度 × 研修経験 >

表5 実施頻度と研修経験による各得点と分散分析結果

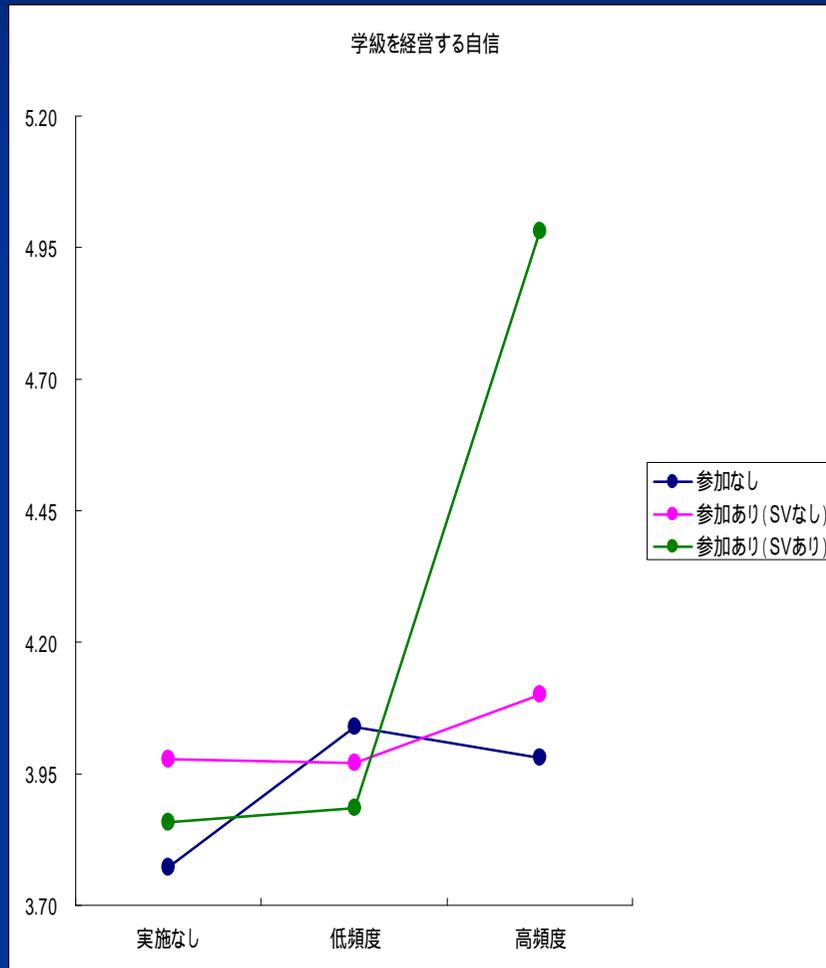
	実施なし			低頻度			高頻度			主効果		交互作用
	参加なし	SVなし	SVあり	参加なし	SVなし	SVあり	参加なし	SVなし	SVあり	実施頻度	研修参加	
情熱	4.62 (0.55)	4.63 (0.42)	4.69 (0.11)	4.70 (0.46)	4.70 (0.46)	4.32 (0.22)	4.82 (0.49)	4.81 (0.38)	5.18 (0.44)	4.56	0.01	1.51n.s.
自信	3.77 (0.65)	3.98 (0.44)	3.86	4.04 (0.55)	3.97 (0.62)	3.89 (0.41)	3.98 (0.42)	4.10 (0.54)	4.98 (0.65)	3.94	0.91	2.51*
適応	3.4492 (0.68)	3.67 (0.47)	4.08 (0.59)	3.6154 (0.77)	3.54 (0.65)	4.13 (0.46)	3.3125 (0.49)	3.56 (0.74)	3.67 (0.56)	1.06	2.43	0.76n.s.

上段:平均値, 下段:標準偏差

\*:p<.05 n.s.:not significant

「学級を経営する自信」に有意な交互作用が見られた ( $F(4,201) = 2.51, p < .05$ )。

# 結果



- SVあり群における頻度の単純主効果( $F(2,201)=5.61, p<.01$ )が有意であった。TukeyのHSD法(5%水準)による多重比較を行ったところ、高頻度群と低頻度群に有意な差があった。
- 高頻度群におけるSVの単純主効果( $F(2,201)=6.47, p<.01$ )が有意であり、TukeyのHSD法(5%水準)による多重比較を行ったところSVあり群と参加無し群、SVあり群とSVなし群との間に有意差が見られた。

# 考察

- SGEを月に1回以上実施している教師は、実施しない教師に比べて「教育に対する情熱」や「学級を経営する自信」が有意に高い。

SGEを実施したことによって、「教育に対する情熱」が得られ、「学級を経営する自信」が得られる

「教育に対する情熱」があるからこそSGEを実施し、「学級を経営する自信」を深めているなどの循環

# 考察

- SGEのSVを受けている教師は、SVを受けていない教師より「学級を経営する自信」が高い

SGEのSVは、

技法的なアドバイス、リーダーシップ、指導スタイルの客体化・相対化(指導スタイルをモニタリング)

SVを受けた教師は自らの長所や短所を生かしながら指導にあたっている。

# 考察

- SVを受けていてSGEを月に1回以上実施している教師は「学級を経営する自信」が高い子どもたちが変容していく姿を目の当たりにし、手ごたえを感じている。  
丹藤(2005)「目標の達成的経験が得られ、教師としての学びの意欲が強く、教師自身が確実に成長しているという感覚があることが効力感形成にとって重要である」  
子どもたちの変化が教師の「学級を経営する自信」に結びついていると考えられる。

# 考察

- SGEを月に1回以上実施していても、研修経験のない教師、研修経験はあってもSVを受けていない教師の「学級を運営する自信」は、SGEを実施しない教師やたまたまに実施する教師と変わらない

子どもの変容という“手ごたえ”を感じていない。SVを行いSGEを適切に実施することで子どもへの効果、教師への効果を得られる。

# 今後の課題

SGEの実施と教師への効果との因果関係

子どもの変容と教師の効果の関係

尺度の信頼性・妥当性

# 引用・参考文献

- 朝日朋子 1996 インストラクションの内容 國分康孝 監修 岡田弘 編集 エンカウンターで学級が変わる 小学校編 図書文化 84-85
- 藤村一夫 2004 8.リーダーのタイプ, 教師への影響 國分康孝・國分久子 総編集 構成的グループエンカウンター事典 図書文化 616-617
- 武蔵由佳 2004 エンカウンターに関する研究 1.学級経営 國分康孝・國分久子 総編集 構成的グループエンカウンター事典 図書文化 602-603
- 大関健道 2001 エンカウンターによる教師の自己成長とは 國分康孝・加勇田修士・朝日朋子・吉田隆江・大関健道・國分久子編 エンカウンスキルアップ ホンネで語る「リーダーブック」 図書文化 19-21
- 丹藤進 2005 教師効力感の研究--循環モデルに向けて 青森中央学院大学研究紀要 (7),21-44

ご清聴ありがとうございました。